

2001年12月入職

は か ま だ た か こ
袴 田 貴 子



自分たちのアイデアで、施設を変えていく

家庭用の浴槽を、みんなで新設しました

以前、働いていた施設では、車椅子の方の入浴に関しては、機械浴が主でした。ただ、機械の位置が高いところにあるため、怖くなって入浴を拒否される方が多いという難点がありました。今の施設でも浴槽自体も銭湯のように広いので、少し落ち着かないという声もありましたね。浴槽の広さを快適に感じる方がいらっしゃる一方で、自宅との違いに違和感を感じる方もいらっしゃいます。多くの方に入浴を楽しんでいただくためにはどうすればいいのか。ある日の会議でそんな議題が出てきたとき、「車椅子に座れる方であれば、家庭用のお風呂にも入れるはずでは？」という意見が出ました。もちろん、機械浴でしか入浴ができない方もいらっしゃいますが、家庭用の浴槽に入れる方もたくさんいらっしゃるのではないかと。

1人用と3人用の浴槽を新設しようというアイデアが出たのはそのときです。安全性を考慮し、地面もタイルから桧に変えることになりました。完成したときは「本当にできたんだ」と感慨深い気持ちでした。このリニューアルのおかげで、「お風呂に入りたい」と希望される方がとても増えました。前は嫌々だった方も、入浴の時間を楽しめるようになったんですよ。その変化を自分たちのアイデアで生み出したことに、大きなやりがいを感じました。



何時間も話し合った末の決断



自分の力で施設を良くしていきたいという思いは、エキスパートケアワーカーになったことでより強くなりました。もともと人見知りなので、今回の話をいただいたときも上長と何時間も話し合い、最後には今の自分を変えていきたいと思い、お引き受けすることにしました。上がり症も、人前に出る場数を踏んでいければ治るのではないかと。

実際、日々の行動は少しずつ変わってきたと思います。たとえば、ショートステイを

はじめてご利用される方に対しても、「昨晚はよく寝られましたか？」などの接触をマメに行いながら、「また来たいと思っていただくにはどうすべきか」を考えながら接しています。いきなり性格が変わることはないと思いますが、少しずつ、自分のペースで殻を破っていききたいですね。

心からの「ありがとう」と
「笑顔」を引き出せる
介護士になりたかった。

袴田貴子